

例年よりずっと涼しい山中湖より、残暑お見舞を申し上げます。すでに秋風を感じる昨今ですが、みなさんの夏の思い出は、どのように綴られているでしょうか？

さて、七月の探偵団は、昆虫の暮らしをほんの少しのぞかせてもらった半日でした。林先生との質疑応答で、一七八八年の「リンネの分類」(スウェーデンの生物学者による生物体系)が話題に上がり、それが、現代の分類基礎になっているとのことでした。そして、以降二百五十年間の、世界中の昆虫少年や学者たちの膨大な研究や調査を思うと、リンネを水源とする雄大な大河が見えるようです。

探偵団の終わりに、「へビは手足が退化して、今の姿になったんですよ」と、平然とくくられた林先生のご発言に、参加者一同、鳩が豆鉄砲の一瞬だったのが、印象的でした。アカデミックな事実というのは、時として、おとぎ話みたいですね。

▼参加者の感想文

当日は小雨模様。ペンションまでもさんに集合した参加者は、午前中、ストーブの点いた部屋で、林先生のお話を伺いました。

午後からは移動して、喫茶室あみんさん周辺の虫たちを観察しました。歩き始めてすぐ、先生がミドリシジミを見つけてくださり、みんまでじっくり眺めました。ミドリシジミは羽を閉じている時は茶色で、後ろの下の方にオレンジと黒の目のような模様があります。



↑ ミドリシジミ



← 亀の甲テナントウ



← アサジキカメムシ

どうしてミドリシジミとかいうのかしらと思っていたら、蝶の羽を先生が広げてくださいました。羽を広げた蝶はとても美しいブルーグリーンだったのです。幼虫はハ

ンノキを食べるらしく、蝶はそれぞれ決まった樹の葉だけを食べるそうです。

昆虫と仲良くなれば、必然的に樹木とも仲良くなれそうです。毒のある葉を食べて、鳥に食べられないように身を守るとか、さまざまな策や工夫をこらして生き延びる小さな虫たち。ひよっとして、彼らは人間より高等な生き物かも知れないと思えてくるのが、不思議でした。

ウスバカゲロウ、亀の甲テナントウ、マメコガネ、みやまバッタ、ヤマトシリアゲムシなど、まだまだたくさんのお虫がいました。ほんのちよつと歩いただけなのに、よくもまあこんなに沢山の虫がいるものだと感じました。

最後に印象に残ったのは、インヴェントリー調査をしましょう、と先生が話されたことです。インヴェントリーとは、辞書で引くと特定地域の野生動物生息数などの一覧とか、目録の作成とあります。商品の在庫調べとか財産目録という意味が、もともとのようですね。

地球上の生き物たちは、まさに私たちにとって財産です。でも、果たして彼らは、ヒト課の我々を彼らの財産だと、思っているのでしょうか？

うーん、ちよつと心配。(Y・K)

お知らせ

林正美先生ご推薦の「イモムシ・ケムシ そろそろ大図鑑」PHP出版を、探偵団で購入しました。こんなイモムシが、あんな美しい蝶に変身する！あみん本棚にありますので、みなさんどうぞ、ページをめくってください。

▼九月の探偵団活動のご案内

◇初秋の風に吹かれる一日◇
伊藤浩美映像カメラマンが、須走口登山道六合目付近を、案内してくださいませ。

・開催日 九月二十七日(木)
・集 合 午前9時半

「すばしり道の駅」
参加費 二二〇〇円(ガイド代、保険代を含む)

・もちもの 昼食・マイカップ・雨具・ストック・任意で
ポケット図鑑や双眼鏡等
*三日前までにメールか電話で、お申し込みください。

◎なお、十月の活動は、二十日(土)の予定です。

発行 山麓探偵団 事務局
山梨県山中湖村平野一六九八
電話 〇五五五・六五・七〇二三